



シリーズ
第19章

幸せの連鎖を 起こしたい

おもて
表 萌々花さん
Baraka Dunia 代表

かがや 輝く女性と 高山で活躍する みなさんの今

県は県内で活躍する女性や子育てを応援する企業を平成26年から認定。うち、市内には23人の女性と3つの企業があります。高山で活躍する“みなさんの今”を連載で紹介いたします。



ストリートチルドレンなど、世界が抱える貧困問題と向き合い活動する表さん。貧困問題に関心を持ったのは、中学生の時です。母親がチャイルドスポンサーシップという子ども支援プロジェクトを始めたことでした。表さんもプロジェクトに参加し、ルワンダで暮らす7歳の女の子とパートナーになり、毎月自分のお小遣いを支援金として送りました。

―いつか彼女とルワンダで会いたい―

そんな思いから、アルバイトをしながら学べる通信制の高校に進学し、旅の資金を貯めました。

高校卒業後、インドネシアで語学を学んだ後、タイやラオス、ベトナムで子どもたちに英語を教え、孤児院で活動を行いました。

その他にもヨーロッパや中東などさまざまな国を1年間渡り歩いた表さん。一番心に残っているのは、ケニアで過ごした3カ月です。

―家も家族もない子たちが、ドラム缶で腐った肉を焼いて食べたり、空腹を紛らわすためにシンナーを吸ったり…目の前の光景にこれまでの常識が一瞬でひっくり返されました―

何をするのが彼らのためになるのか考えながら、首都ナイロビのスラム街でストリートチルドレンの救済活動を行いました。

帰国後の平成29年7月、世界中の貧困に苦しむ子どもたちを支援する目的で、NGO団体「Baraka Dunia」(ケニアの公用語スワヒリ語で「世界に祝福を」)を設立。高山では、表さんが大好きな音楽を通じてチャリティーイベント「Bonsai」を開催し、収益金をケニアで出会ったNGO団体に活動支援金として寄付する活動を展開しています。

―支援を必要とする子どもと、支援したい人をつなぐ役割を担っていきたい―

高山の地から幸せの連鎖が生まれた瞬間です。

広報 市長だより

85

ジビエ料理の秘めた可能性

高山市長 國島芳明

日本ジビエ振興協会が主催する「第3回ジビエ料理コンテスト」で飛騨猟友会清見支部の上屋薫里さんが農林水産大臣賞を受賞し2月5日、同支部代表の梅地清澄さんとともに受賞報告にお越しいただきました。

大臣賞を受賞したレシビは「鹿肉のビビンバとスネ肉のスープ」。家庭で誰でも作れるよう地元食材も使いながら、栄養バランスにも考慮して作られています。

近年のジビエ料理は、処理加工技術の向上により、みなさんが想像されるような臭みはありません。また、脂肪分が少なく鉄分が多いなど、ヘルシーで栄養価が高いことが注目されています。さらには、鳥獣被害対策にも繋がるジビエ料理。

このような大きな可能性を秘めたジビエ料理の中で、高山から日本一の料理が生まれたことは、好機であり、市としてもジビエの消費拡大に積極的に努めてまいります。



ケーブルテレビの番組「ハイ、市役所です」はインターネットでもご覧いただけます。市ホームページ「行政情報」の動画コーナー

高山市公式YouTubeチャンネル

検索

市長室へ ようこそ

●市民と市長の面談日



3月11日(月)

午後1時15分～4時30分

※事前にご予約ください

市長室直通FAXもご利用ください
FAX●36-2060

問合せ先 秘書課 ☎35-3130

編集・発行/高山市総務部広報情報課
〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
TEL/0577-32-3333(代)
FAX/0577-32-7000 (市長室直通)
FAX/0577-35-3174 (広報情報課直通)

E-mail/kouhou@city.takayama.lg.jp
HP/http://www.city.takayama.lg.jp/
携帯用HP/http://mobile.city.takayama.lg.jp/
防災行政無線の内容は電話でも確認できます
☎0577-35-6000